

ロシアの武装戦闘機、3月にほぼ毎日シリアの米軍基地上空を飛行
アレクサス・グリーンケウィッチ中将が NBC ニュースに語ったところによると、ロシアの戦闘機は今月、水曜日を含めて約 25 回、アット・タンフ基地の領空を侵犯している。

2023 年 3 月 23 日午前 6 時 17 分 JST

コートニー・クベ作

シリア地域の航空作戦を担当する米軍司令官によると、3月にはほぼ毎日、武装したロシア軍機がシリアの米軍駐屯地の上空を飛行しており、4年前に米ロ間で結ばれた協定に違反し、事態がエスカレートする恐れがあるという。

米中央軍の連合軍航空コンポーネント司令官であるアレクサス・グリーンケウィッチ中将は、NBC ニュースの取材に対し、アット・タンフ守備隊 (ATG) の直近のロシア軍機の上空通過はその数時間前であり、ロシア軍機による領空侵犯は2月は0回、1月は14回だったのに対し、今月に入ってから約25回に上っていると述べた。

グリーンケウィッチ中将は「実質的な増加だ」と述べ、このペースなら「過去の倍になる軌道に乗っている」と説明した。

グリーンケウィッチ中将は「彼らは定期的に我々の部隊の真上を飛行しており、私は真上を、約1マイル以内、片側または反対側に1マイル以内の距離と定義していますが、我々はATGの地上に部隊を配置しています。」と述べた。「つまり、居心地の悪い状況なのです。」

ロシアの航空機には Su-34 が含まれています。空対空兵器を搭載した航空機と空対地兵器を搭載した航空機があります。兵器には、レーダー誘導・熱探知ミサイルや爆弾などがあります。

これは、先週黒海でロシアの Su-27 戦闘機 2 機が米国の MQ-9 リーパー無人機の周りを攻撃的に飛行し、燃料をドローンに投棄して最終的に衝突し、米国がド

ローンが水中に沈めることを余儀なくされた事件を受けたものです。

グリーンケウィッチは、ロシアがシリアの米軍に対して武器を使用する動機はないと考えていると述べました。「しかし、それは誤算のリスクを高めるだけであり、黒海での MQ-9 の事件のようなことを考えると、私がプロの空軍に期待するような行動ではない。」

米軍は、ロシアと共有している確立された非紛争電話回線を使ってこの行動に抗議しているが、ロシアの行動を変えてはいない。その代わりに、グリーンケウィッチによると、ロシアは電話会談の中で、アットタンフ（アルタンフとも）上空のすべての空域を米国の領空と認識していないことや、この地域での連合軍の活動に対応していることを米国に伝えたという。

2019年に米国とロシアは、偶発的かつ潜在的に挑発的な遭遇を避けるために、シリア上空の規則を制定した。双方は、特に武装した航空機による地上での互いの位置の直接の上空飛行は受け入れられないことで合意した。

「ロシア側は過去数ヶ月間、この議定書の信条を放棄したようだ」とグリーンケウィッチは述べた。ロシア側は依然としてロシアの地上部隊に近づかないよう米国に要求しており、米国はそれを守っていると説明した。しかし、ロシア側はシリア南部の地上にいる米軍の上空を直接飛行しており、これを挑発的と非難した。

グリーンケウィッチは、ロシア側は意見の異なる米軍のシリア駐留に圧力をかけるために、より攻撃的な姿勢を取る可能性があるとして述べた。しかし、米国とロシアの両国がシリアにおける ISIS と対立するはずであり、シリアにおける ISIS の存在が続いている（場合によっては拡大している）ことから、「これを行うのは非常に奇妙な時期のように思われる」と述べた。

これまでのところ、上空飛行は地上での米軍の作戦に影響を与えていないが、米国や国際的な対 ISIS 連合は確かにロシアの航空機に対応しており、しばしば遠くからそれらに影を落としている。グリーンケウィッチは、地上での米軍の作戦中

にロシアの航空機に対応しなければならない場合、ミッションを危険にさらす可能性がある」と警告した。

「実際には、ISIS との戦いから注意をそらすものだ」と彼は言った。「地上での戦いにはまだ影響を与えていないが、次のような可能性を秘めていることは確かだ。」。

「私はあからさまな敵対行為を気にしているのではなく、誰かによる誤算やプロらしくない、未熟な行動を気にしているのです。」。

「私はこれまでのキャリアの中で、合意されたプロトコルや矛盾のないルールをこれほど軽視したことは見たことはありません。「これは非常にユニークで、今私たちが見ているのは」。

ワシントン D.C.のロシア大使館にコメントを求めたが、回答は得られなかった。